

平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : 株式会社日立製作所

研究開発課題 : 超高速・低消費電力光ネットワーク技術の研究開発
課題 I (c) プロトコル無依存リンク多重化技術

研究開発期間 : 平成 24 ～ 26 年度

代表研究責任者 : 坂本 健一

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)
(評価点 20 点／ 25 点中)

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- 実質半年間の研究期間であるが、計画通りの進捗であり、今後も十分な成果が期待できる。
- 特筆すべき成果が現時点では見られないため、今後に大いに期待したい。
- 今後、より多くの外部発表を期待する。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

計画通りの成果が得られ、一部に進歩的な成果が認められる。
順調に目標を達成している。

(コメント)

- ほとんどの課題において方式検討が終了し、ボードの製作段階である。
- 研究発表数は現時点では予定を下回っているが、年度内には当初予定を達成見込みである。
- 特に問題はない。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

研究資金が有効かつ効率的に執行されている。
予定通り支出されている。

(コメント)

- 研究費はほぼ予算通り執行されている。
- 特に問題はない。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

研究開発の実施計画は実施期間を通して実行可能であり、有効かつ効率的に組まれている。

(コメント)

- 研究が順調に実施されており、また H25 年度および H26 年度分の課題の前倒しも可能としている。
- 特に問題はない。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

翌年度の研究開発実施計画との整合が図られ、全体的に適切な計画となっている。
具体的かつ明確である。

(コメント)

- 有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。
- 特に問題はない。25 年度に光伝送を行うための予算が必要となった。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

研究開発を実施する体制は妥当である。
適切に実施体制が組まれている。

(コメント)

- H24 年度に研究員を 1 名増員したのは評価できる。